

# 沿岸技術研究センターとの思い出や これからの期待



## 元野 一生

一般財団法人国際臨海開発研究センター  
専務理事

沿岸技術研究センター創立40周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。貴センターは我が国の沿岸分野における技術開発の飛躍的な向上に大きな貢献をいただいた機関であります。また貴センターの設立と40年にわたる運営にかかわった多くの関係者の皆様のご尽力に対しまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、貴センターの港湾建設技術の発展へのこれまでの貢献が私が申すまでもないことです。私も、運輸省港湾建設局、国土交通省地方整備局の勤務を通じて、熊本新港での軟弱地盤着底式防波堤の開発、関西国際空港での地盤沈下対策をはじめ港湾・空港のプロジェクトに参加してまいりました。軟弱地盤、地震対策、急速施工など大きな課題を抱えますと、貴センターにすぐさまご相談を申し上げたものでした。貴センターは、その設立趣旨である、「沿岸海域技術分野の第一線研究者、技術者が最先端技術を持ち寄り、学際的かつ創造的な技術開発に専念できる環境」を文字通り提供され、数々の課題を克服されました。特に、国土交通省地方整備局(旧運輸省港湾建設局時代を含む)からは挑戦的な技術課題が示され、港湾技術研究所の研究員の参画により内外の最先端の研究開発、被災事例など最先端の研究が紹介され、貴センターの技術陣による施工技術の難易度と、資機材の確保の見通しによる現実的な設計手法の提案と、3者が一体となって、合理的で実用的な技術開発を生んできたと思っています。最近、地方整備局の行政事務のスリム化で、貴センターの果たす役割がこれまで以上に期待されることとなります。

次に、我が国の港湾建設技術の海外展開にも貴センターに期待するところが大きいです。小生の勤務する国際臨海開発研究センター(OCDI)では、海外での港湾開発プロジェクトの案件化に

取り組み、港湾管理者や政府関係者との意見交換を持つ機会があります。彼らは、日本の港湾建設技術や建設会社に対して、高い期待を寄せております。近年貴センターは、以下の港湾の設計や維持管理に関する技術資料の英語翻訳事業にも取り組んでいただいております。こちらも海外の技術者からも評価する声を聴いております。基準などの技術資料をわかりやすく翻訳し、信頼性のある技術として海外に認知・普及させることが、我が国の港湾建設技術の海外展開にも一役買うものと考えます。

### CDITの英語翻訳資料

- 1)日本の港湾設計基準に関する技術説明資料(英語版、OCDIとの共同事業、2023年1月公表)
- 2)港湾の施設の維持管理技術マニュアル(英語版、2023年7月公表)

最後に、グローバル化する港湾社会において、港湾建設技術の迅速な普及・展開が求められると考えます。海外の先進国だけでなく途上国港湾においても、気候変動に対する港湾設計技術や、排出ガスの少ない船舶の係船、荷役機械あるいは水素エネルギー基地の建設とカーボンニュートラルに関する新たな港湾の技術を求める声があります。先だって、第三国から、洋上風力発電の基地港湾の設計に関する、セカンドオピニオンを日本に求める要請がありました。日本の港湾で、あるいは日系企業が開発した港湾建設技術を、よりスピーディに世界に普及・展開することが、内外の港湾の発展につながるのではないのでしょうか。

貴センターが提供する「研究者と技術者らが集まり、学際的かつ創造的な技術開発に専念できる環境」は、より一層の重要性が増してくるものと考えます。